

資料 2 第 130 回火山噴火予知連絡会について

平成 26 年 10 月 23 日、第 130 回火山噴火予知連絡会が開催された。同連絡会では、全国の火山活動の評価のほか、御嶽山、口永良部島、桜島、霧島山の火山活動について特に重点的に検討を行い、委員及び関係機関からの報告をもとにとりまとめた。その結果を気象庁が以下のとおり発表した。

第 130 回火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果

御嶽山の火山活動には低下傾向がみられるものの、今後噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、9 月 27 日に水蒸気噴火が発生しました。噴火は剣ヶ峰山頂の南西側に新たに形成された北西から南東に伸びる火口列で発生し、大きな噴石が火口列から約 1 キロメートルの範囲に飛散しました。また、火砕流が発生し、火口列から、南西方向に約 2.5 キロメートル及び北西方向に約 1.5 キロメートル流下しました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近では樹木が焦げたような痕跡は認められませんでした。

9 月 27 日以降、活発な噴煙活動と連続的な火山灰の放出が続きましたが、10 月 11 日以降は火山灰を含む有色の噴煙は観測されず、噴煙活動も徐々に低下してきています。

二酸化硫黄の放出量は、噴火発生直後から 10 月 3 日までは 1 日あたりおよそ 500 トンから 1500 トンと多い状態で推移しましたが、その後は 1 日あたりおよそ 100 トンから 500 トンとやや少ない状態となっています。

火山性微動は振幅の増減を繰り返していましたが、10 月 7 日以降は検知できない程度の大きさになっています。火山性地震は噴火発生直後には多発しましたが、その後は次第に減少してきています。

御嶽山東麓の水準測量では、2006 年から 2013 年にかけて隆起が観測されていましたが、噴火後の測量で沈降が観測されました。なお、傾斜計でも、噴火直前に山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなりました。

以上のことから、火山活動には低下傾向がみられるものの、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。積雪期に火砕流が発生したり、熱水が流出したりした場合には、火山泥流が発生する可能性があります。

今後も噴気活動や地震活動、地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。

引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

第 130 回火山噴火予知連絡会 口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島では、噴煙活動等が継続しており、今後も 8 月 3 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島の新岳では、8 月 3 日に噴火が発生しました。大きな噴石が山頂火口から約 1 キロメートルの範囲に飛散し、火砕流が新岳山頂火口の南西側から西側にかけてと東側に流下しました。噴出した火山灰には新鮮なガラス質粒子が少量含まれており、今回の噴火にはマグマが関与したと考えられます。

8 月 3 日の噴火以降、新たな噴火は発生していません。新岳山頂火口や西側割れ目からの噴煙活動がやや活発な状態で継続しており、10 月 7 日から 8 日に実施した現地調査では、新岳南西斜面で新たな噴気が確認されています。

二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 200 から 500 トンと噴火前（1 日あたり 100 トン未満）よりも多い状態となっています。

火山性地震や継続時間の短い火山性微動を時々観測しました。

水準測量や GNSS 観測によると、山麓の観測点による基線長には大きな変化は認められていません。

以上のことから、噴煙活動等は継続しており、今後も 8 月 3 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

現在のところ、マグマが大量に上昇していることを示す変化はみられず、大規模な噴火につながる兆候は認められませんが、今後も地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注

意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

第 130 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、第 129 回火山噴火予知連絡会（平成 26 年 6 月 3 日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成 26 年 6 月 3 日～10 月 23 日）、御嶽山、口永良部島、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。爆発的噴火は 8 月下旬から増加し、今期間 265 回（10 月 13 日まで）発生し、噴火による噴煙の最高の高さは火口縁上 4,500m、大きな噴石が最大 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800m）まで達しました。また、火口周辺にとどまるごく小規模な火砕流が 1 回発生しました。

地殻変動観測では、桜島島内で山体が隆起・膨張する傾向がみられましたが、2014 年 7 月頃から沈降する傾向がみられます。また、始良カルデラ深部の膨張は、停滞していますが、長期的には膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕2013 年 11 月 20 日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。新たな陸地（西之島と接続した新島部分）の拡大の継続が確認されており、旧島のほとんどを埋没させています。2014 年 10 月 16 日時点で、新たな陸地の面積は約 1.85km²になっています。

西之島では噴火活動が継続しており、新たな陸地、旧島及びそれらの付近の海域では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していましたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（平常）〕2013 年 12 月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近で火山性地震が時々発生しています。2014 年 8 月 20 日に硫黄山付近を震源とする継続時間約 7 分間の火山性微動が発生しました。微動の発生に伴い傾斜計に硫黄山の北西が隆起するような変動が観測されました。えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動が高まっていますので、今後の推移に注意する必要があります。また、噴気や火山ガスなどが突然噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性があります。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕2014 年 8 月 27 日以降孤立型微動や火山性地震が増加しています。中岳第一火口では、火口底の一部で赤熱を観測し、中央部付近の噴気孔は温度の高い状態となるなど火口内の熱活動が高まっています。8 月 30 日～9 月 1 日、9 月 6～7 日に中岳第一火口のごく小規模な噴火が時々発生しました。

以上のように中岳第一火口の火山活動が高まっていることから、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、2014 年 5 月頃からは湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる全磁力変化がみられています。また、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられます。

以上のように、草津白根山の火山活動は活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大

きな噴石に警戒してください。

蔵王山〔噴火予報（平常）〕2014 年 8 月から 10 月にかけて火山性微動が 9 回発生し、8 月には火山性地震もやや多い状況となりました。火山性微動発生時には、傾斜変動がみられることがありました。10 月 8 日と 19 日に御釜内において軽微な変色域の一時的な発生が確認されました。2013 年 1 月以降、地震活動の高まりがみられており、過去の活動期には突発的な噴気孔の生成、火山ガスや泥の噴出等の現象もありましたので、観光や登山で近づく際には十分に注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

① アトサヌプリ〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- 全磁力連続観測によると、96-1 火口南側地下の温度が上がった状態が継続している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 大雪山〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④ 十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- 吹上温泉地区では、2012 年からわずかながら認められた温泉の Cl/SO₄ 比の上昇が、2013 年 4 月以降は横ばいからやや減少の傾向を示しています。
- ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量及び地震回数の増加や火山性微動の発生、発光現象などが観測されています。今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤ 樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

- 山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥ 倶多楽〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦ 有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 恵山〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

① 岩木山〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 八甲田山〔噴火予報（平常）〕

- 「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014 年 2 月頃から減少し、今期間も少ない状況で経過しました。
- 2013 年 4 月から 7 月にかけて増加した大岳山頂直下の地震活動も、少ない状態で経過しました。
- 2013 年 2 月頃から 11 月頃にかけてみられていた小さな膨張性の地殻変動は、その後みられません。
- 地獄沼付近の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- 大岳山頂直下付近の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④ 岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 6 月上旬に火山性地震が一時的に多くなりましたが、期間をとおしての火山活動は概ね低調に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤ 秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも特段の変化はみられません。
- ・ 女岳^{めだけ}では、2009 年から拡大している地熱域が引き続きみられます。今期間、南東火口でわずかな地熱域の拡大がみられましたが、その他の領域では変化みられず、総じて大きな変化は認められませんでした。
- ・ 地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥ 鳥海山〔噴火予報（平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦ 栗駒山〔噴火予報（平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 蔵王山〔噴火予報（平常）〕

- ・ 8 月から 10 月にかけて火山性微動が 9 回発生し、8 月には火山性地震もやや多い状況となりました。
- ・ 火山性微動発生時には、傾斜変動がみられることがありました。
- ・ GNSS による地殻変動観測に特段の変化はみられませんでした。
- ・ 噴気活動の変化は確認されませんでした。
- ・ 10 月 8 日と 19 日に御釜内において軽微な変色域の一時的な発生が確認されました。
- ・ 2013 年 1 月以降、地震活動の高まりがみられており、過去の活動期には突発的な噴気孔の生成や、火山ガスや泥の噴出等の現象もありましたので、観光や登山で近づく際には十分に注意してください。

⑨ 吾妻山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 大穴火口の噴気活動は、やや活発な状態が続いています。
- ・ 地震活動は少ない状態で経過し、地殻変動にも特段の変化はみられませんでした。
- ・ 大穴火口等では火山ガスの噴出がみられますので警戒してください。また、大穴火口の風下側でも火山ガスに注意してください。

⑩ 安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 日光白根山〔噴火予報（平常）〕

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 草津白根山〔噴火予報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

- ・ 2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加していましたが、8 月後半からは減少しています。火山性微動は発生していません。
- ・ GNSS による地殻変動観測では、2014 年 4 月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられます。
- ・ 湯釜周辺の傾斜計にも湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。
- ・ 湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。
- ・ 2014 年 5 月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、7 月以降は停滞しています。
- ・ 2014 年 5 月から、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分が急減しています。
- ・ 以上のように、草津白根山の火山活動は活発な状態が続いており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④ 浅間山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- ・ 火山性地震は、2010 年 4 月以降やや少ない状態で推移しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2010 年 3 月以降やや少ない状態で推移しています。

- ・山体周辺の GNSS による地殻変動観測では、2009 年秋頃から縮みの傾向がみられます。
- ・火山活動は静穏な状態が続いていますが、山頂火口から 500m の範囲では、火山灰噴出や火山ガス等に警戒してください。

⑤ 新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥ 弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

- ・弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。
- ・立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意して下さい。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦ 焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 乗鞍岳 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル 3、入山規制）] ←平成 26 年 9 月 27 日に噴火警戒レベルを 1（平常）から 3（入山規制）に引上げ。9 月 28 日に警報事項を切替え（噴火警戒レベル 3（入山規制）は継続）。

- ・9 月 27 日 11 時 52 分頃、噴火が発生しました。今回の噴火の規模は、1979 年の噴火と比較すると若干規模の大きいものと考えられます。
- ・気象レーダーの観測によると噴煙は東に流れ、その高さは火口縁上約 7,000m と推定されます。
- ・上空からの調査によると、噴火は剣ヶ峰山頂の南西側で北西から南東に伸びる火口列から発生したとみられ、大きな噴石が火口列から約 1 km の範囲に飛散しているのが確認されました。
- ・火砕流が中部地方整備局設置の滝越カメラにより南西方向に 3 km を超えて流下したのを観測しました。その後の調査により、火砕流は火口列から南西方向に約 2.5 km、北西方向に約 1.5 km 流下したことがわかりました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近で樹木等が焦げたような痕跡は認められませんでした。

- ・噴出した火山灰には新鮮なマグマに由来する物質は確認されておらず、今回の噴火は水蒸気噴火であったと考えられます。
- ・この噴火の 11 分前から発生し始めた火山性微動は、噴火発生以降、振幅の大きい状態が約 30 分間続きました。その後振幅の増減を繰り返しながら 10 月 7 日頃まで継続しました。
- ・御嶽山東麓の水準測量では、2006 年から 2013 年にかけて隆起が観測されていましたが、噴火後の測量で沈降が観測されました。なお、傾斜計でも、噴火発生後の 7 分前から山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなるような変化が観測されました。
- ・噴煙の高さは噴火発生翌日の 9 月 28 日には火口縁上 800m を観測しましたが、その後は概ね火口縁上 200～500m で推移しています。
- ・地震回数は、噴火が発生した頃はかなり多くなりましたが、10 月に入ってから減少して少ない状態になっています。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）観測によると、噴火発生直後から 10 月 3 日頃までは 1 日あたりおよそ 500～1500 トンで推移していましたが、その後は 1 日あたりおよそ 100～500 トンと減少しています。
- ・今後も噴火する可能性がありますので、火口から 4 km 程度の範囲では、大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

⑩ 白山 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・2011 年 3 月 15 日に山頂の南南西約 5 km、深さ 15 km を震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード 6.4、最大震度 6 強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫ 箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑬ 伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭ 伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。2011 年頃から鈍化していましたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられます。
- ・7 月 23 日から 25 日及び 28 日から 29 日にかけて、島北部を震源とする火山性地震が増加しました。この期間に震度 1 以上を観測する地震が 17 回発生し、このうち最大の地震は 28 日 17 時 05 分に発生した M3.7（暫定値）の地震で、伊豆大島町元町と静岡県東伊豆町奈良本で最大震度 3 を観測しました。この地域ではこれまでも何度か地震が多発していますが、2002 年以降みられた活動の中では最も活発なものでした。
- ・カルデラ直下浅部が震源と推定される低周波地震を 9 月 3 日 10 時 59 分に観測しました。低周波地震の発生は 2012 年 10 月 28 日以来です。
- ・その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。2014 年 8 月以降、山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

⑮ 新島 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯ 神津島 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰ 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・今期間、噴火は発生しませんでした。噴火は 2013 年 1 月 22 日を最後に発生していません。
- ・山頂浅部を震源とする地震は、今期間概ねやや少ない状態で推移しました。
- ・GNSS による観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃

から停滞しています。一方、島の南北を挟む長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。

- ・二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、期間中は 1 日あたり 200 トンと、やや少量の火山ガス放出が続きました。
- ・火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性がありますので、火口周辺（雄山環状線内側）では引き続き噴火に警戒してください。風下にあたる地区では火山ガスに警戒してください。

⑱ 八丈島 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲ 青ヶ島 [噴火予報（平常）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳ 西之島 [火口周辺警報（入山危険）] ←平成 26 年 6 月 11 日に警報事項を切替え（火口周辺警報（入山危険）は継続）。

- ・2013 年 11 月 20 日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出により、出現した新島が拡大し、2013 年 12 月 26 日には西之島と一体となりました。
- ・その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地（西之島と接続した新島部分）の拡大が確認されており、旧島のほとんどを埋没させています。2014 年 10 月 16 日時点で、新たな陸地の面積は約 1.85km² になっています。
- ・また、2014 年 10 月中旬までに噴出したマグマの量は約 7 千万 m³ と見積もられており、マグマの噴出レートは 2014 年 10 月現在、1 日あたり約 35 万 m³ 程度です。
- ・噴火確認以降、西之島周辺で常に変色水が確認されています。また、西之島南方約 10 km あたりでも変色水域が確認されています。
- ・西之島では噴火活動が継続しており、新たな陸地、旧島及びそれらの付近の海域では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

㉑ 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

- ・島西部のミリオンダラーホール（旧火口）では、2012 年 2 月以降ごく小規模な水蒸気爆発が度々発生していますが、今期間は噴火は確認されていません。

- ・地震は 2014 年 3 月からやや多い状態で経過しています。火山性微動は時々観測されています。
- ・GNSS による地殻変動観測では、沈降の傾向が 2014 年 1 月頃から停滞していましたが、2 月下旬頃から再び隆起の傾向がみられています。なお、島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。
- ・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

② 福德岡ノ場 【噴火警報（周辺海域警戒）】

- ・変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4. 九州地方・南西諸島

① 鶴見岳・伽藍岳 【噴火予報（平常）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 九重山 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・GNSS 観測によると、一部の基線でわずかに伸びの傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 阿蘇山 【噴火予報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】 ←平成 26 年 8 月 30 日に噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引上げ

- ・7 月 5 日から 10 日にかけて火山性微動の振幅が大きくなり、7 月下旬には、孤立型微動や火山性地震が一時的に増加しました。これに伴い火口直下で増圧に引き続き減圧がありました。また、8 月 27 日以降、孤立型微動や火山性地震が多い状態で経過しています。
- ・7 月 17 日の現地調査で、中岳第一火口の火口底の湯だまりが消失しているのを確認しました。湯だまりが消失しているのを確認したのは 1993 年 2 月 25 日以来です。
- ・7 月 28 日の夜間に実施した現地調査では、火口底の一部（火口底中央噴気孔周辺）で赤熱を観測しました。火口底の赤熱は 2005 年 9 月 3 日以来です。
- ・中岳第一火口中央部付近では 5 月以降期間を通じて高温の噴気孔を確認しました。赤

外熱映像装置による観測では、噴気孔の最高温度は 8 月以降、420～498℃（5～7 月：167～352℃）と高い状態になりました。

- ・南側火口壁の温度は高い状態で経過しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は、期間を通して 1 日あたり 800～2,200 トンと多い状態で経過しました。2014 年半ば以降、GNSS 観測により草千里の下部にあると考えられるマグマだまりの収縮が、停止していると思われます。
- ・8 月 30 日 09 時頃実施した現地調査で、中岳第一火口の噴火を確認しました。8 月 31 日～9 月 1 日、9 月 6～7 日にもごく小規模な噴火が時々発生しました。
- ・火口内の熱活動が高まるなど中岳第一火口の火山活動が高まった状態になっていると判断し、8 月 30 日 09 時 40 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に上げました。
- ・中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。
- ・南阿蘇村吉岡の噴気活動はやや活発な状態が続いており、引き続き噴気活動に注意してください。

④ 雲仙岳 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤ 霧島山

新燃岳 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

- ・新燃岳では、2011 年 9 月 7 日を最後に噴火は発生していません。
- ・火口内に蓄積された溶岩の状態に特段の変化はありませんでした。火口内南東側の火口の形状にも特段の変化はみられませんでした。しかし、火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
- ・新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は 2012 年 3 月以降観測されていません。
- ・GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していましたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。
- ・新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火

に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

えびの高原（硫黄山）周辺 【噴火予報（平常）】

- 2013 年 12 月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近の海拔下約 0～3 km で、火山性地震が時々発生しています。
- 8 月 20 日に硫黄山付近を震源とする継続時間約 7 分の火山性微動が発生しました。微動の発生に伴い傾斜計で硫黄山の北西が隆起するような変動が観測されました。
- 韓国岳北東に設置した傾斜計では、2013 年 12 月頃から北西上がりの傾向がみられていましたが、2014 年 7 月頃からやや鈍化しています。
- 火山活動が高まっていますので、今後の推移に注意する必要があります。
- えびの高原（硫黄山）周辺では、噴気や火山ガスなどが噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性があります。

⑥ 桜島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】

- 昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。
- 爆発的噴火は、8 月下旬から増加し、8 月は 76 回、9 月は 99 回、10 月は 13 日までに 13 回で、期間中（2014 年 5 月から 10 月 13 日）の爆発的噴火の回数は 265 回で、うち 6 回で大きな噴石が 3 合目まで達しました。噴煙の高さが火口縁上 3,000m 以上の噴火は 9 回発生し、最高は火口縁上 4,500m（5 月 10 日 13 時 7 分の爆発的噴火と 6 月 6 日 13 時 11 分の爆発的噴火）でした。火口周辺にとどまるとごく小規模な火砕流が 1 回発生しました。
- 南岳山頂火口では、5 月 8 日～10 日、7 月 28 日、9 月 7 日にごく小規模な噴火が発生しました。
- 二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 1,200～2,500 トンと概ね多い状態が継続しています。
- 鹿児島県の降灰観測データをもとに解析した火山灰の月別の噴出量は、5 月～9 月は 1 ヶ月あたり 10 万トン～60 万トンでした。

- 島内の傾斜計では、2014 年 1 月頃から山体が隆起、膨張する傾向がみられていましたが、7 月中旬頃から山体が沈降する傾向となっています。
- 火山灰の放出量と地殻変動量から導いた桜島直下へのマグマの供給量は、2014 年 2 月以降停滞していましたが、6 月頃一時的に増加し、その後減少しました。9 月からは再び増加に転じています。
- GNSS による地殻変動観測では、島内で 2014 年 1 月頃から伸びの傾向がみられていましたが、7 月頃から停滞しています。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013 年 6 月頃から停滞していますが、長期的には膨張が進行してきています。
- 昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦ 薩摩硫黄島 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧ 口永良部島 【噴火予報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】 ←平成 26 年 8 月 3 日に噴火警戒レベルを 1（平常）から 3（入山規制）に引上げ、8 月 7 日に噴火警戒レベル 3（入山規制）を切替

- 8 月 3 日 12 時 24 分頃、新岳で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上上がりました。このため、8 月 3 日 12 時 50 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 3（入山規制）に引上げました。
- 8 月 3 日に発生した噴火は、火山灰を分析した結果、マグマが直接関与していた可能性があることがわかりました。今後、マグマが関与した噴火が発生した場合、火砕流が発生する可能性があることから、8 月 7 日 10 時 00 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を切り替えました。

- ・二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり 200～500 トンと、噴火前（1 日あたり 100 トン未満）よりも多い状態で継続しています。
- ・火山性地震や継続時間が短い火山性微動は時々発生しています。
- ・新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
- ・向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。
- ・風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。
- ・降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

⑨ 諏訪之瀬島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

- ・御岳火口では、爆発的噴火が 6 月に 11 回発生し、その後も噴火が時々発生しました。
- ・8 月 28 日 12 時 50 分に発生した噴火では、灰白色の噴煙が火口縁上 2,000 m まで上がり、9 月 3 日 10 時 49 分に発生した噴火では、灰白色の噴煙が最高で火口縁上 2,200 m まで上がりました。
- ・今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。